

教師の資質を育てる ボランティア活動

教育ボランティアだより NO.12

2013年 12月5日 教職支援室

◇ 11月27日に甲府市立新紺屋小学校、翌28日に相川小学校を訪問させていただきました。多くの先生方に支えられながら、学生は、しっかりと目的意識をもってボランティア活動に取り組んでいました。「教員の先輩として、**学生を育てるという意識**で受け入れて」頂いているなあと感じました。

～ 3年生理科の個別指導をする橘さん～

新紺屋小担当の赤坂先生のお話

〔教育ボランティアについて〕

- ・子どもへの細かい指導にこの活動を活かしたい。特にほめること、声かけを通して、子どもに自信をつけてもらいたい。
- ・先生方の指導技術やよさを自分のものにしてやろうという気持ちで、**高い志と目標**をもって、主体的に参加してほしい。

〔学生の様子〕

- ・欠席もせず来てくれるので信頼がおける。将来も、きちんとやっていける人間だと思える。
- ・本校のその日の実情に合わせ、気楽に対応してくれ、ありがたい。
- ・例えば、高橋一輝さんは体育の指導を活かして6年生の陸上指導を、増田仁美さんは家庭科のミシンの実習で実力を発揮し、渡邊純子さんは音楽の指導に、と多学年の主要教科のT・T指導のみならず、実技教科においても活躍してくれています。

子どもの目線に合わせて指導する姿がとても印象的



《特別支援教育特別専攻科 橘 彩加 さん》

- ・子どもたちにかかわる機会を多くもちたいと思い参加しました。
- ・教育実習と違い、1年間という長いスパンで考えられるのがよいと思います。子どもが私たちを特別扱いせず、普通の教師のように見てくれるのが嬉しいです。
- ・言い過ぎて、子どもの思考を妨げてしまうのではないかと心配することがあります。そんなとき、先生方の一人ひとりに対する言葉のかけ方は、とても参考になります。学ぶことが多いです。

《相川小校長の渡辺先生や担任のお話より》

・学生たちは、本校へ関わりを始めたころは戸惑っていた様子もあったが、だいぶ慣れ、所属学年の子ども一人ひとりを理解し、とても頼りになる存在になっている。本校のスタッフと同様である。

- ・箕浦（美術専修4年）さんは・・・どの場面でも積極的である。

声掛けをよくしてくれる。支援が必要ではない時は、プリント等の処理をしてくれる。よく尋ねてくる。所謂、気が利くので、自分から積極的に行動をしてくれて助かる。また、子どもとよく接しているが、毅然としたところもある。学習や行動が遅れがちの子には、応援して、後押しをしている。と、ほめられました。

- ・・・・校長先生以下相川小のスタッフは、後輩を育てていくという心配りが沢山うかがえ、安心しました。

相川小学校では、箕浦麻樹さんの指導の様子を伺いました。



他にも、高橋利奈さん、綱川陽香さん、山口瞬さん、鹿山宅耶さん、鈴木理仁さんが、活動しています。校長先生がおっしゃるには、どの学生も本校のスタッフとして、頼りになる存在だそうです。学生を大切にしてくれる姿勢がうかがえました。

ここで現場の楽しさや・課題を体験できる学生は、とても幸せです。